

まちづくり交付金 事後評価シート
砂川駅周辺地区

平成18年12月

北海道砂川市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道	市町村名	砂川市	地区名	砂川駅周辺地区
計画期間	平成16年度～平成18年度	まちづくり交付金交付期間	平成16年度～平成18年度		
モニタリング実施時期		事後評価実施時期	平成18年度	フォローアップ実施時期	平成19年1月～平成20年3月

1) 事業の実施状況	当初計画どおり実施した事業	高次都市施設(基幹事業/地域交流センター・自由通路)、地域生活基盤施設(基幹事業/多目的広場)、まちづくり活動推進事業(提案事業)
	当初計画から変更した事業(変更した内容)	なし
	変更した理由、目標・数値指標への影響等	なし

2) 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況	指 標		単位	達 成 度			達成見込みの有無		効 果 発 現 要 因
	指標1	指標2		モニタリング	事後評価	フォローアップ	あり	なし	総 合 所 見
	居住人口		人						地区内の基盤整備(関連事業)が拠点施設の整備と並行して進められた。
	地域交流センター利用者数		人/年						設計段階からフォーラムや研修等を市民と協働で行ったため市民活動の意識改善が図られオープン後の利用が期待できる。
	土地の有効利用率		%						地区内の基盤整備(関連事業)と拠点施設及び公的住宅整備が進められたことにより、民間需要も誘引した。

3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従 前 値		数 値			効 果 発 現 要 因
	その他の数値指標1	その他の数値指標2		基準年度	モニタリング	事後評価	フォローアップ	総 合 所 見	
	なし								
	なし								
	なし								

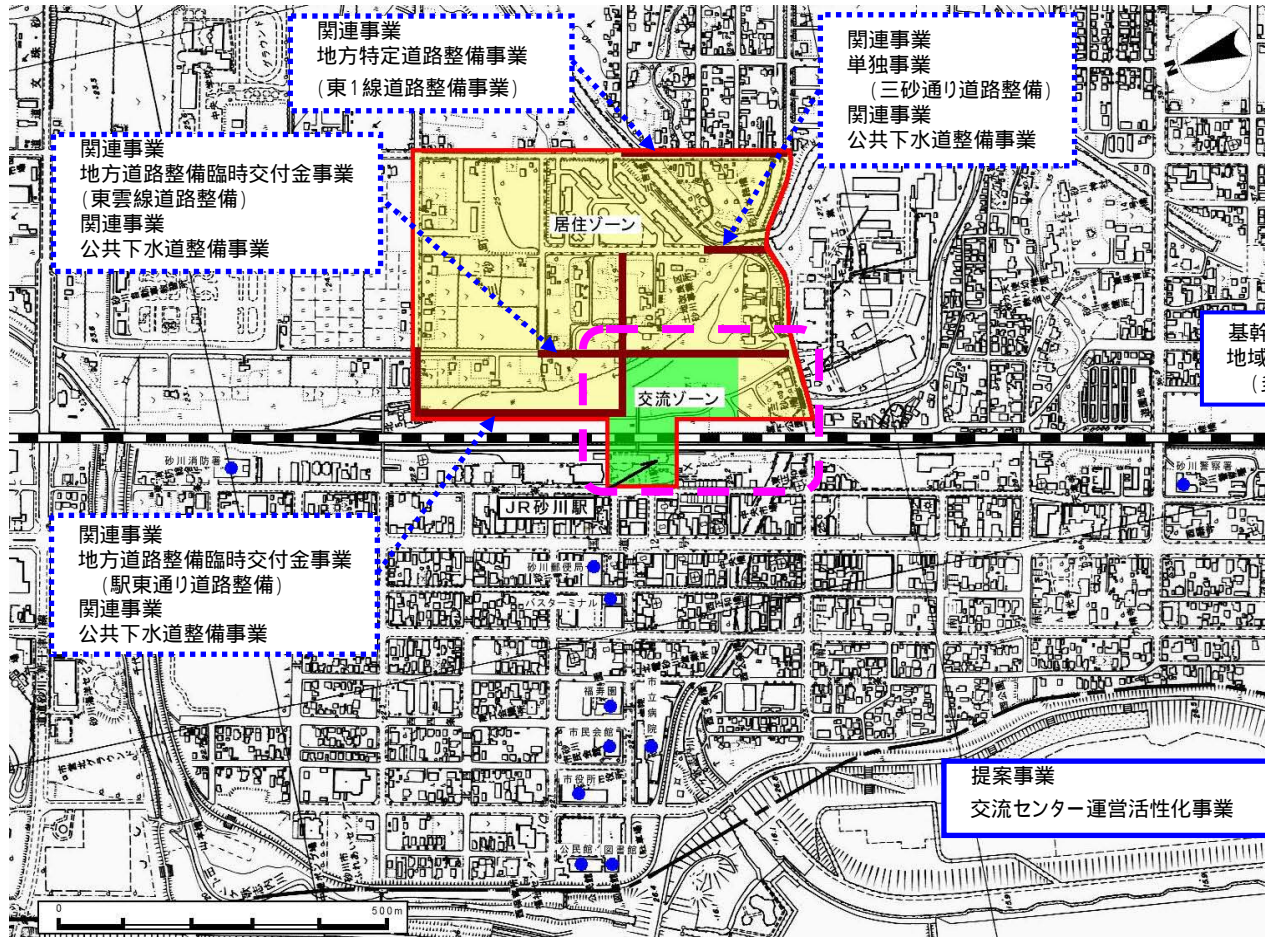
4) 定量的に表現できない定性的な効果発現状況	特になし
-------------------------	------

5) 実施過程の評価	評価項目	実施内容	実 施 状 況			今 後 の 対 応 方 針 等
	モニタリング	なし	予定どおり実施できた			
			予定していなかったが実施した			
			予定したが実施しなかった・できなかった			
	住民参加プロセス	施設の運営を担うための市民組織の発足。施設活性化計画策定。まちづくりフォーラムの開催。人材育成研修、施設運営研等の企画、実施。	予定どおり実施できた			施設を中心とした市民活動が盛んになり、様々な分野の既存団体との連携事業も展開されていくことから、継続的な活動を支援する体勢づくりに努めていきたい。
			予定していなかったが実施した			
			予定したが実施しなかった・できなかった			
	持続的なまちづくり	施設運営を担う組織の法人化が実現。議決の承認を得て、指定管理者として指定された。	予定どおり構築できた			施設を担う団体が法人化され、指定管理者になったことにより、市民活動の意識が高揚し新たな布石となった。今後も共働による「まちづくり」を構築していきたい。
			予定していなかったが構築した			
			予定したが構築しなかった・できなかった			

様式2-2 まちづくり交付金の成果及び今後のまちづくり

砂川駅周辺地区まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	交流拠点を核とした、基盤整備による新たな市街地の創造と賑わいの創出	まちづくり交付金の代表的成果	居住人口の増加 (単位:人)	348 (H16)	→	503 (H18)
			地域交流センター利用者数 (単位:人/年)	0 (H16)	→	40,000 (H18)
			土地の有効利用率 (単位:%)	46.7 (H16)	→	59.3 (H18)



今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<p>・駅西側地区整備事業</p> <p>本事業の完成後には、JR函館本線で分断されていた東西市街地が一体化され均衡ある発展が図られ、中心市街地の賑わいへの波及効果が期待できる。また、駅西側地区にある地域医療の中心的な役割を担ってきた市立病院が老朽化・狹隘により療養環境や災害拠点病院としての機能充実を求められており、地域の基幹医療施設としての役割を発揮できる院舎と周辺環境整備を進め、中心市街地のさらなる活性化を図っていく。</p>
----------------------	---